

旧有備館及び庭園の復興 岩出山ボランティアガイドの会 中森 成信さん

あらためて感じた 各地からの有備館への愛

三月十一日の午前中、ボランティアガイドとして有備館の案内を終え、自宅でくつろいでいたときに地震が起きました。地震直後に被害の確認をしに行つたときには、変わり果てた姿になっていました。「まさかここまで崩れるとは…」と、ただただ驚くばかりでした。

東日本大震災後は、ボランティアガイドの要請はほとんどなくなつてしまつたので、それなら有備館の復旧支援活動をしように考えました。五月三日からの有備館の一部公開にあわせ、有備館に応援メッセージボックスを設置したり、募金活



上 / 岩出山ボランティアガイドの会の中森成信さん
下 / ゴールデンウィークには多くの人々が来館しました

動を始めました。五月三日以降、市内外から、たくさんのお客さんが来館しました。観光に来て、地震により有備館が崩れたことを初めて知った人もいたようです。

何より私たちが勇気づけてくれたのは「早く元の姿に戻るとよいですね」「がんばって」という励ましの言葉です。姉妹都市の北海道・当別町の皆さんからも、応援の言葉が届いたり、義援金などで多くの支援をいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

今回、有備館が皆さんから愛されているのをあらためて感じました。岩出山地域の象徴を復活させるため、復旧支援活動を続けていきます。

鹿島台地域で災害ボランティアとして活躍 鹿野 祐樹さん

若者の力を利用するため もっと情報を発信するべき

地震後は、JR東北本線が止まつてしまい、私がつまっている大学が休校になったこともあり、ほとんど自宅にいました。そんなとき、自宅近くの大崎市社会福祉協議会鹿島台支所で災害ボランティアを募集していることを知りました。市内はもちろん、地域の状況が分からずモヤモヤしているくらいなら、まちなの様子をこの目で確かめ、少しでも困っている人のために活動したいと思い、ボランティアを行うことに決めました。

私が行った活動は、鹿島台地域の避難所の炊き出しの手伝い、家屋の中で散乱している家



3週間、地域のために力を尽くした鹿野祐樹さん

具の片付けなどです。避難所では、避難者の話し相手にもなり、余震が続く中、少しでも気持ちを落ち着かせることができるといふ気持ちで接していました。

お年寄りや一人暮らしの人は、家の片付けを行うにしても、一人では限界があるので、体力のある若い人たちが積極的にボランティア活動に参加するべきだと思いました。また、ボランティアセンターの存在が、あまり知られていないことも活動している中で気づきました。若者の力を利用するため、どこに行けばボランティアの情報を得られるのかを、受け入れる側がもっと発信することが必要だと感じました。

復旧現場からの声 建設会社に勤務する 伊藤 博明さん



懸命に復旧作業に励む伊藤博明さん

早期の復旧を目指して

私たちは、東日本大震災で損壊した道路などの復旧作業を行っています。

最初に復旧を急いだのは、道路です。交通量が多い主要な道路にも大きい被害があつたので、まずは車が通れるように作業に当たりました。

道路に面している家屋で、傾いたり一部損壊しているものについては、通行する人や車を運転している人の妨げにならないよう、バリケードで囲つて二次被害が起きないようにしています。

今回の震災の影響で、田んぼの地割れや亀裂、陥没などの被害により、そのままでは田植え

ができない状態のところもありました。そのような被害のあつた田んぼを直して欲しいという要請が増え、四月下旬から作業を開始しました。

従業者の中には農業に携わる人もいるので、おいしいお米を待ち望んでいる人のため、早く作業を開始したい農家の皆さんの気持ちはよくわかります。

被害の程度により、修復に時間がかかりますが、米どころ大崎市で農業を営む人のため、復旧に全力で取り組んでいます。

市内には、震災で被害を受けたため、整備しなければならぬ道路などがまだあります。忙しい日々は続きますが、皆さんが安全に生活できるように、一杯頑張ります。

ラジオ放送 おおさきさいがいエフエム



上 / おおさきさいがいエフエムの福地孝さん
下 / スタジオから地域の情報を伝えます

生きた情報を素早く的確に!

市内各地域で多くの被害があつたのに、伝える手段がない。そんな危機的状況で、いち早く市民の皆さんに情報を伝えるため、三月十五日に東北総合通信局から臨時災害放送局の免許を取得し、おおさきさいがいエフエムが始まりました。

市内の被害状況、ライフラインの状況を把握するため、自転車や自分の足で、市役所、消防署、学校、市街地を回り懸命に情報を集め、必要とされている情報を流し続けました。

テレビや新聞からは、被害の大きい沿岸部などの情報が伝えられるものの、大崎市のような内陸部の状況がわからなかった

ので、そういう意味では、少しは皆さんの役に立てたかな、と思つています。

リスナーの反響は大きく「貴重な情報をありがとう」「元気をもらった」などの声が寄せられ、皆さんから逆に支えられ、励まされた面もあります。大崎市出身で現在は海外に住んでいる人から、友達を心配して連絡がきたこともありました。

今回の震災を通して、必要な情報を正確に素早く伝えることがいかに大切かを、あらためて感じました。

おおさきさいがいエフエムは五月で終了しましたが、地域に密着した情報を提供できる、コミュニティエフエムの開局を目指して準備を進めています。